

文化人の描写に基づく我孫子の 景観構成要素の把握

石川有生*・荒井 歩**

(平成 23 年 2 月 24 日受付/平成 23 年 6 月 17 日受理)

要約: 現・千葉県我孫子市内に位置していた旧我孫子町南部周辺は、大正時代に入ると主に手賀沼沿いの斜面地に文化人の別荘や住居が建てられ、一種の文化人コロニーを形成した。本研究では、コロニーの概要及び構成文化人を明らかにした上で、文化人の作品に描かれたコロニーの景観構成要素を抽出し、その特徴を分析することを目的とした。描かれた景観構成要素の特徴として以下の結果を得た。①身近な動植物や、日常生活における眺望を構成する景観構成要素が多数確認された。②白樺派の構成文化人は、彼らが思想的に求めた美しさや豊かさを、我孫子の「一般的で身近な自然」の中に見出していた。

キーワード: 我孫子, 景観構成要素, 文化人, 白樺派, 大正時代

1. 研究の背景と目的

千葉県我孫子市は、東京からおよそ 40 km 圏内に位置する首都圏近郊のベッドタウンである。手賀沼と利根川に挟まれた海拔約 20 m のなだらかな台地が東西方向に伸び、崖線下の手賀沼沿いおよび利根川沿いに低地が広がる独特な地形を有している。

我孫子市は、明治時代末期頃より「北の鎌倉」と呼称される程に別荘地として注目された歴史を持つ。特に大正時代には手賀沼沿いの斜面地に白樺派を中心とした文化人達に移り住み、その周辺は一種の文化人コロニーの相を呈していた。しかし、第二次世界大戦後の手賀沼干拓事業や高度経済成長期以降の急速な住宅地開発などにより文化人コロニー周辺の環境や景観は変容していった。

平成 19 (2007) 年 8 月、我孫子市は景観行政団体となり、景観形成における特定地区として「手賀沼ふれあいライン特定地区」が定められている。この特定地区の区域は文化人コロニーが立地していた場所と重なっており、これまで文化人の居住跡や記念碑等を用いた点的整備が行われてきた。今後は点的整備の拡充に加え、文化人コロニーに関する地域固有の線的・面的資源を活かした景観整備が求められる。

そこで本研究は、文化人コロニーに滞在した文化人が文学作品に描いた大正時代の我孫子における景観や環境に着目した。文化人は文化人コロニー滞在中に各々文学作品を残しており、その中には我孫子の景観や環境が描かれているものが少なくない。文化人が文学作品に描いた我孫子の景観構成要素を、彼らの文芸潮流に関連した景観構成要素として整理し、それらを我孫子の歴史的景観構成要素として位置付けることが可能ではないかと考えた。

文学作品をテキストとして用い景観構成要素や空間要素

を把握するために、池田ら (1993) は文学作品から空間を読み取る手法を整理し、心象空間の抽出手法としての価値を提示した¹⁾。さらに池田ら (1997) は芥川賞受賞作品をテキストとして自然景観要素を抽出し、その意味内容と年代による変化について考察を行った²⁾。これらの研究成果を鑑み、文学作品をテキストとした抽出手法は有用であると判断した。同様の手法を用い、杉浦ら (2002) はテキストから安曇野における農村風景の構成要素を抽出し、「農村集落の修景に際する基礎的な資料」作成を目標として農村風景変遷の解明を試みた³⁾。しかし杉浦らの研究は、時代の推移に応じた構成要素の消失に関して解明したものの、変化することのない構成要素の価値については言及していない。持続的な景観整備には、地域の固有性を反映した不変的な価値付けを景観構成要素に対して行うことが重要と考える。

そこで本研究は、大正時代を中心に我孫子で築かれた文化人コロニー (以下、コロニー) の構成文化人とコロニーの概要を明らかにした上で、コロニー周辺景観の特徴を整理した。さらに、構成文化人らの我孫子に関する著作に描かれた景観構成要素を抽出し、その特徴を分析することにより、今後の我孫子市の景観形成におけるそれらの位置付けを考察することを目的とした。

2. 研究の方法

(1) コロニー構成文化人の抽出

文献調査より、出身が我孫子以外で、大正時代に我孫子周辺に滞在して文芸活動に勤しんだ人物をコロニー構成文化人 (以下、構成文化人) として抽出した。さらに構成文化人の中心であった白樺派について文献調査をし、概要整理を行った。

* 東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻

** 東京農業大学地域環境科学部造園科学科

(2) コロニー形成期間とコロニー立地場所の分析

文献調査より構成文化人が生活を送るために我孫子に滞在した時期をコロニー形成期間と位置付け、その期間を特定した。

また、文献を用いて当時の各構成文化人住居の位置を把握し、1897(明治30)年陸地測量部発行の1/20,000の迅速測図⁴⁾を用いて作成したコロニー周辺のベースマップ上においてその位置を視覚的に整理した。

(3) コロニー周辺環境の把握

作成したベースマップと日本地図センター発行の第一測期1880(明治13)年の1/20,000の地図⁵⁾を用いて、コロニー周辺における土地利用の把握を行った。また、当時のコロニー周辺の様子が把握できる写真資料⁶⁾と文献⁷⁻¹⁰⁾より、当時のコロニー周辺における景観の特徴を分析した。

(4) 構成文化人に評価された景観構成要素の分析

a) テキスト選定

構成文化人の著作において、コロニー周辺の景観や環境の描写が含まれ、随筆などの著者自身の視点で書かれている文学作品をテキストとして選定した。その結果、武者小路実篤「新らしき家」¹¹⁾、志賀直哉「雪の日」¹²⁾、「雪の遠足」¹²⁾、「矢島柳堂」¹²⁾、柳宗悦「我孫子から 通信一」¹³⁾、「我孫子から 通信第二」¹³⁾、「我孫子から」¹³⁾中勘助「沼のほとり」¹⁴⁾の計8作品をテキストに用いた(表1)。なお、柳宗悦の「我孫子から」の3シリーズと志賀直哉の「雪の日」、「雪の遠足」に関しては内容を検討した結果、連続性のある作品と考えられたため各々まとめて1作品とみなして分析を行った。

b) テキスト分析

テキストを読み込み、我孫子の景観・環境にまつわる記述部分を本文から抜き出し、テキストデータを作成した。その後テキストマイニングソフトKHCoder Ver 2. beta. 23¹⁵⁾を用い形態素分析を行った。次にKHCoderにおいて23区分された品詞体系のうち、景観構成要素として扱う名詞が含まれると考えられた、2文字以上の一般名詞である「名詞」、平仮名のみ的一般名詞である「名詞B」、漢字一文字の一般名詞である「名詞C」、「固有名詞」、「組織名」、「人名」、「地名」の категорияに着目した。それらのcategoryに含まれる抽出語の作品内での用いられ方を文中で各々確認し、「景観・環境を指し示し、著者自身が目にした、もしくは耳にしたことによって作中に描写された要素」という抽出条件を満たしている抽出語を文化人に描かれた景観構成要素として抽出した。その際に、「水」という

名詞で抽出されても、文中では「沼の水」という名詞句の形で用いられている場合などは、「水」ではなく「沼の水」と修正を加え抽出した。

次に、それらの景観構成要素をcategoryに分類し、整理を行った。

さらに、景観構成要素において要素を修飾している形容詞や形容動詞等に目し、それら形容表現の抽出を行った。またcategoryごとに似た意味合いの形容表現をまとめ、整理した。以上の分析結果をもとに構成文化人に描かれた景観構成要素を明らかにし、その傾向について考察を行った。

3. 研究結果

(1) 構成文化人の抽出及び白樺派の概要把握

a) 構成文化人の抽出

文献調査によって構成文化人として計10名が抽出された^{7,16)}。さらに文芸活動の内容から、構成文化人は4タイプに分類された。白樺派として活動を行っていた、柳宗悦(1889~1961)、武者小路実篤(1885~1976)、志賀直哉(1883~1971)、バーナード・リーチ(1887~1979)の4名、作家・文筆家の中勘助(1885~1965)、滝井孝作(1894~1984)、杉村楚人冠(1872~1945)の3名、教育関係者である嘉納治五郎(1860~1938・柔道家)、村川堅固(1875~1946・東京帝国大学教授)の2名、声楽家の柳兼子(1892~1984・宗悦の妻)の1名で構成されていた¹⁶⁾。

構成文化人によるコロニーの形成過程は大きく3段階に区分された。最初に1911(明治44)年、嘉納治五郎が別荘地を求めて我孫子の天神山に転入する。

次に、1914(大正3)年9月に柳宗悦と妻の兼子が宗悦の叔父である嘉納治五郎の勧めに応じ我孫子に移り住む。続いて、1915(大正4)年には志賀直哉が友人である柳宗悦の紹介により我孫子の弁天山に住居を購入した¹⁶⁾。

さらに1916(大正5)年以降、バーナード・リーチは柳宗悦から、武者小路実篤と滝井孝作は志賀直哉から、村川堅固は嘉納治五郎から紹介を受け、我孫子に別荘を設けることになった。杉村楚人冠は1912(大正元)年に前年取材で訪れた手賀沼周辺の風景に魅せられ別荘を設けた¹⁶⁾。中には転入理由が不明である¹⁶⁾。

形成過程の区分整理より、コロニーはまず嘉納治五郎が我孫子の環境を評価し、嘉納治五郎、柳宗悦、志賀直哉の3名が中心となって形成し、次いで知人らへの紹介によって発展していったことを把握した¹⁶⁾(表2)。

b) 白樺派の概要

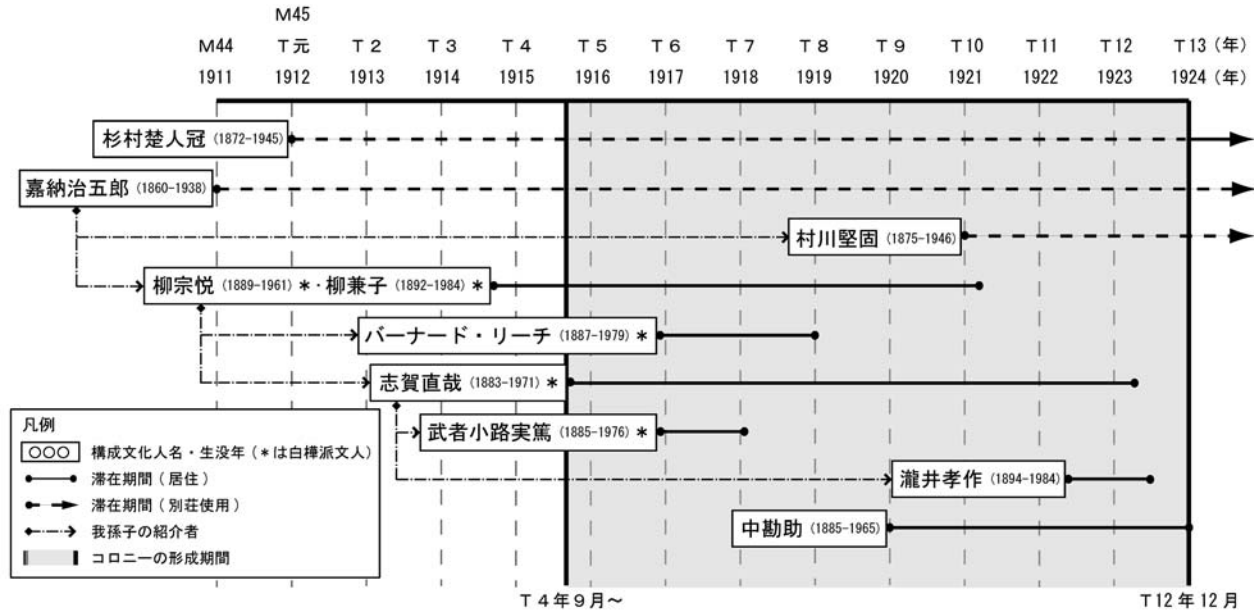
白樺派は上流階級出身かつ学習院の同窓生によって形成された作家・美術家のグループである¹⁷⁾。初期同人は武者小路実篤、志賀直哉、木下利玄、里見弴、園池公到、児島喜久雄、柳宗悦、郡虎彦、有島武郎、有島生馬の計10名であり、彼らは1910(明治43)年~1923(大正12)年に渡り雑誌「白樺」を刊行し、「白樺」を中心として活動した¹⁸⁾。白樺派は当時の社会風潮の気運に乗り、「大正期のほぼ三分の二にわたる時期の文壇において、いわば中心勢力とみなされた」¹⁷⁾とされている。

「白樺」が創刊した1910(明治43)年は、自然主義文学

表1 選定テキスト

著者	著作名	種類	テキストデータ 文字数(文字)
武者小路実篤	新らしき家	随筆	8,105
志賀直哉	雪の日	日記	4,612
	雪の遠足	私小説	5,357
柳宗悦	我孫子から 通信一	随筆	6,425
	我孫子から 通信第二		
中勘助	沼のほとり	日記	17,835

表 2 構成文化人によるコロニー形成過程



運動が衰退を迎えた頃にあたり、白樺派の文学はこれに相対するように、理想主義文学と呼ばれ、「大正期のデモクラシーにささえられた理想主義的な思潮を、その文学ないし芸術作品の上に表現し反映したものである」と位置づけられた¹⁷⁾。また、白樺派の主張の特徴として、徹底的な個性尊重主義と人道主義が挙げられる。人道主義に最も熱心であったのは武者小路実篤であり¹⁷⁾、『『白樺』の中心人物、といて適當でないなら先頭人物は武者小路実篤であった。』¹⁸⁾とあるように、白樺派はこの武者小路実篤を中心として人間の「自我」や「自由」、「豊かさ」についての思想を展開した。

また1914(大正3)年に開戦を迎えた第一次世界大戦による大戦バブルと称された好景気は、日本の青年達に自我や自己について考えさせる契機となった。世間では社会主義や人道主義の議論が高まり、白樺派はそうした社会背景をもとに勢力を強めていた^{17,19,20)}。その後、1920(大正9)年の株式大暴落を受けて白樺派は全盛期の影響力を急速に低迷させ、1923(大正12)年に『白樺』は終刊を迎えた¹⁹⁾。

これらのことから白樺派の活動は、「いわゆる『白樺』派の思想運動のもっとも活発な時期は、雑誌の創刊から一九二三年(大正一二年)までの一三年間である」¹⁷⁾とされ、またその中でも1914(大正3)、1915(大正4)年以降から第一次世界大戦が終戦を迎えた1918(大正7)年前後が白樺派の全盛期であったという見解がなされている¹⁹⁾。

(2) コロニー形成期間とコロニーの立地場所の分析

a) コロニーの形成期間

構成文化人によるコロニー形成過程の分析から、文化人コロニー形成の中心と考えられる、嘉納治五郎、柳宗悦、志賀直哉の3名の滞在が確認できる1915(大正4)年9月から、構成文化人のコロニー滞在形態が別荘使用のみとなった1924(大正13)年末までをコロニー形成期間と位置付けた(表2)。また、白樺派の構成文化人達は、白樺派の活動全盛期から低迷期、終焉期にかけてコロニーに滞在し

ていたことが明らかとなった。

b) コロニーの立地場所

構成文化人住居は、当時の手賀沼沿い北側の崖線や台地上に分布していた。我孫子新田周辺には嘉納治五郎、中勤助、柳夫妻とバーナード・リーチ、志賀直哉、瀧井孝作、村川堅固、杉村楚人冠らの住居7軒が、そして根戸新田には武者小路実篤邸が立地していた(図1)。秋谷(1978)は大正時代における手賀沼周辺の自然や生活の様子を描いた「手賀沼と文人」⁷⁾で、「この先は、根戸下、そこは、当時我孫子でなく隣村、富瀬村にぞくしていた。』⁷⁾、「左手に一軒の農家を過ぎると、これが我孫子の東端であり、前方は高野山新田となる。』⁷⁾と記述し、台地上が「我孫子」という一つの地名のまとまりを持っていたことを示唆している。武者小路実篤邸は根戸の台地上に存在していたことから、コロニーは根戸と我孫子の台地周辺を中心に位置していたと考えられる。また現在の地名では我孫子新田、根戸新田、船戸、白山、緑、寿にあたる地域がコロニーの位置であることがわかった。

(3) コロニー周辺環境の把握

コロニー形成期間における我孫子の土地利用分析から、当時のコロニー周辺は、我孫子停車場周辺かつ水戸街道北側に位置する賑わいを呈した商業地域と、街道以南と手賀沼に囲まれ、住民の大半が半農半漁を営む農業・漁業地域の2つに大別できた。

商業地域には日本鉄道土浦線と成田鉄道線が通る我孫子停車場があった。日本鉄道土浦線は1896(明治29)年に田端～土浦間で、成田鉄道は1901(明治34)年に成田～我孫子間で開通している⁹⁾。また、台地上には水戸街道(以下、街道)が通り、我孫子宿における街道沿いには寺社が多く分布し、商店や旅館が連なっていた⁹⁾。しかし、「点々と茅葺き屋根が並び、その間に数少ない商店がみえる淋しい、田舎通りであった。むろん、街道(当時は往還といった)



*1897 (明治 30) 年陸地測量部発行「2 万分の 1 迅速測図 我孫子宿 取手駅 龍箇崎村」より作成

図 1 コロニー周辺の土地利用

は舗装されていない。ところどころに、車の轍の残った砂利道である⁷⁾という記録もあり、華々しい宿屋街の雰囲気ではなく、宿場が並ぶ田舎通りの様相であったと考えられる。しかし、街道沿いの社寺の一つである「天王様」では夏祭りなどの祭事が催され⁸⁾、駅前の通りには「美しい花がつく桜並木」があり⁷⁾、商業地域は人が集まる場として一定の賑いも見せていた。さらに写真資料⁶⁾から、商店の看板や人々が宿屋の前で憩う姿を確認することができた。

一方、農業・漁業地域では崖線と台地上の大部分が松林で覆われ、杉林、雑木林・灌木林が点在していた。谷戸部分の低地に水田が広がり、台地上には畑の分布が確認できた。手賀沼と崖線の間には湿地、葦原、水田が東西方向に帯状の広がりをみせていた (図 1)。また文献調査より、大正時代中頃の我孫子町では、農業戸数が全体の 73.2%、兼業を入ると 80.3% を占めていたことがわかった⁹⁾。万能 (乾田)、鋤、犁、田舟などを用いた²¹⁾、人力に頼る伝統的な農法が営まれていた。また手賀沼沿岸の農家は副業的に漁業を営む家も多く、各家でサッパ舟を所有し¹⁰⁾、地曳網や張り網などの漁法で、鰻、鯉、鮒、雑魚類などを漁獲していた⁷⁾。高台からは樹木、水田を隔てて沼が広がる景観が眺められたこと、また、低地からは水田や沼が広がる景観が臨めたことを写真資料⁶⁾から把握した。

構成文化人住居は敷地前に水田があった中助助邸を除き、主に松林の中に存在していた。また、それらの構成文化人住居からは、樹木、水田を隔てて沼が広がる眺望景が眺められたと推察される (図 2)。柳夫妻・バーナード・リーチ邸と嘉納治五郎別荘周辺は「左手の高台は、この地でおそらく、いちばん早くひらけた別荘地で、手賀沼を見下ろす絶好の地である。」⁷⁾、武者小路実篤邸周辺は「このあたりは落日の鑑賞にはまことにけっこうで、時には富士のシルエットを見ることができる。」⁷⁾、滝井孝作邸周辺は「この辺りから見る沼の夕景色は抜群であった。」⁷⁾などと文献に記録されている。このことから、柳夫妻・バーナード・

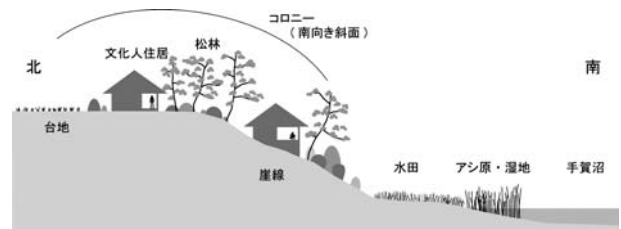


図 2 コロニーの立地断面模式図

ド・リーチ、武者小路実篤、滝井孝作らの住居は、眺めの良い場所に立地していたといえる。

(4) 構成文化人に評価された景観構成要素

a) 景観構成要素の抽出

テキスト分析を行った結果、「新らしき家」から 64 要素、「雪の日」、「雪の遠足」から 52 要素、「矢鳥柳堂」から 109 要素、「我孫子から」シリーズから 166 要素、「沼のほとり」から 773 要素、全テキストから計 1,164 要素を構成文化人に描かれた景観構成要素として抽出した (表 3)。

b) 構成文化人に描かれた景観構成要素の特徴

抽出した全景観構成要素は、計 26 項目のカテゴリーに分類することができた (表 3)。その傾向として、自然、農業、地形に関するカテゴリーの多さがあげられる。自然に関するカテゴリーは、「植物・樹木」(183 要素)、「生物・鳥」(178 要素)、「気象」(96 要素)、「沼」(87 要素)、「空・雲」(48 要素)、「日・光」(39 要素)、「自然」(33 要素)、「土地・土」(22 要素)、「月・星」(14 要素)、「森・林・藪」(12 要素) の 10 項目 (712 要素) であった。地形に関するカテゴリーが、「丘・岡・岸」(22 要素)、「道・路・坂」(16 要素)、「山」(8 要素)、「崖」(7 要素) の 4 項目 (53 要素)、農業に関するカテゴリーは「農業・漁業」(69 要素)、「農作物」(59 要素)、「畑」(54 要素)、「田」(23 要素) の 4 項目 (205 要素) であった。その結果、自然、地形、農業に関す

表3 描かれた景観構成要素のカテゴリー別一覧

	テキスト名・作者						計
	描写 作品	新しき家 武者小路実篤	霞の日・霞の道 志賀直哉	矢島柳堂 志賀直哉	我孫子から 柳宗悦	沼のほとり 中勘助	
●植物・樹木	5	7	6	29	17	124	183
●沼・沼周辺・波	5	5	1	2	31	48	87
●生物・鳥	4	4		59	3	112	178
●気象	4	1	19		4	72	96
○畑	4	2	2		6	44	54
●日・光	4	2		1	9	27	39
家	4	7	1		1	22	31
人	4	1	1	1		27	30
●土地・土	4	5		3	13	1	22
△道・路・坂	4	5	4	1		6	16
●月・星	4	1	1		1	11	14
●森・林・藪	4	6	1	1		4	12
○農作物	3		2		1	56	59
●空・雲	3	5			11	32	48
舟・船・渡し	3		1		3	38	42
●自然	3	1			27	5	33
△丘・岡・岸	3	2			6	14	22
庭	3	1		3		9	13
△山	3	3		1	4		8
鉄道・停車場	3	1	5		1		7
○農業・漁業	2				18	51	69
○田	2					23	23
商店・施設	2		8		1	1	10
△崖	2				1	6	7
社寺	1					3	3
その他	4	5		8	8	37	58
計		64	52	109	166	773	981

表中記号の凡例：●は「自然」、△は「地形」、○は「農業」のカテゴリーであることを示す。

るカテゴリーは総計 18 項目 (970 要素) であった。また、複数のテキストで多数の要素が確認されたカテゴリーとして、「植物・樹木」、「沼」、「生物・鳥」、「気象」、「畑」があげられる。

次に、カテゴリー内の景観構成要素の特徴を分析した (表 4)。まず自然に関するカテゴリー内において、「沼」、「気象」、「空・雲」、「日・光」、「月・星」の 5 項目のカテゴリーでは、単に要素名のみが記述されている場合と併せて、時間や方角、形状など景観構成要素の様子とともに記述されているケースが多く見られた。具体的には、「沼」では「沼の西端」など特定箇所における景観構成要素の記述が確認された。また「気象」や「空・雲」では「西風」・「西の空」など特定な方角に関する景観構成要素がみられた。「日・光」では朝夕の時間帯による書き分けが行われており、特に夕日が多く描かれる傾向にあった。なお、「沼」の水面の様子や水の状態、「気象」における雨の様子、「光」の様子など、景観構成要素の様子が詳細に描かれていた。一方、「植物・樹木」、「生物・鳥」の 2 項目のカテゴリーでは、固有名詞が多く記述される傾向が読み取れた。記述された固有名詞は、「植物・樹木」で 39 種類 (松露、毛氈苔、水草含む)、「生物」で 22 種類、「鳥」で 18 種類 (水鳥含む) と多種に渡った。固有名詞の傾向をカテゴリーごとに見ると、「植物・樹木」は、特に「葎」、「藤」、「小でまり」「柑子蜜柑」に関しては花や実、殻、薫りなど部分的かつ細部に及ぶ記述がみられた。また、「杏の花」、「ぼけの花」など花に関する記述が多く見られた。「生物」は「兎」の記述の多さが挙げられるが、これは志賀直哉が兎を家で飼っており、まとまった記述がみられたためである。「田螺」や「かみきり虫」、「こま虫」など小さな生物まで記述されてい

る。「鳥」は特に「百舌」に関する記述が 34 件、「燕」に関する記述が 17 件と多く見られ、「椋鳥」(8 件)、「鶺鴒」(7 件)、「葎きり」(6 件)、「白鷺」と「鶏」(4 件) がそれに続いた。

次に地形に関するカテゴリー内において、「丘・岡・岸」、「山」のカテゴリーには、遠方の対岸部分や富士山も景観構成要素に含まれていた。また、「道・路・坂」では「沼べりの畔道」、「高台の畑路」、「田圃路」など具体的な様子が記述されているものが 7 件あった。

農業に関するカテゴリー内においても、「農作物」、「畑」のカテゴリーで固有名詞が多く記述される傾向があった。「農作物」では「作物」、「畑のもの」など抽象的な表現のものは 4 件にとどまり、残り 55 件は固有名詞を含むものであった。中でも「稲」(4 件)、「麦」(2 件) は「かけ稲」や「(麦の) 粉」など状態に対する記述が見られた。「畑」は要素名のみで記述されているものが 25 件と多いが、「麦畑」、「菜畑」など農作物の固有名詞を把握して記述されているものも 24 件と多かった。「田」は「沼田」、「刈り田」など具体的な状態を示すものが 4 件あった。

次に、自然、地形、農業に関するカテゴリー内の景観構成要素全体を通して多くみられた形容表現のグループとしては、「美しい・綺麗」(30 回)、「寂しい・さびしい」(17 回)、「好い」(13 回)、「親しい」(12 回)、「静か」(10 回) があげられた。

4. 考 察

我孫子に形成された文化人コロニーは、我孫子の環境に気に入った嘉納治五郎が別荘を所有したことが起点となり、1915 (大正 4) 年～1924 (大正 13) 年において白樺派の文人を中心に作家・文筆家、教育関係者ら 10 名の構成文化人によって形成・発展した。

コロニー形成期の我孫子は、従来からの水戸街道に加え、東京、茨城、千葉県内成田への鉄道が開通し、利便性が増していた。一方、我孫子停留所周辺は宿場街の赴きを有する商業地域であったが、その他は松林の間に半農半漁の生業の景が展開する農業・漁業地域であった。

上記環境の中、構成文化人は我孫子新田や根戸新田の手賀沼北側に位置する南向き崖線や台地上に住居を構えていた。住居は松林に囲まれ、眼下の水田、葦原の先に広がる手賀沼の眺望に秀でていたことが明らかとなった。

構成文化人の内 4 名の我孫子を題材にした著作 5 作品をテキストとして用い、景観構成要素の抽出を行った結果、彼らは我孫子周辺環境の特徴を景観構成要素として著作内に多数描写していた (26 項目、1164 要素)。景観構成要素の特徴としては、自然 (10 項目 712 要素)、地形 (4 項目 53 要素)、農業 (4 項目 205 要素) に関するカテゴリーに属する景観構成要素 (18 項目 970 要素) が大半を占める傾向にあった。

テキストに描かれた自然、地形、農業に関する景観構成要素の特徴としては以下のことが明らかとなった。自然に関する「沼」や「気象」、「空・雲」、「日・光」の景観構成要素では、特定箇所や方角、時間帯における景観構成要素

表 4 構成文化人に描かれた景観構成要素

主要要素	景観構成要素(カッコ内は出現回数)
植物・樹木 (183)	【固有名詞以外】 木(6)・木々(2)・樹・樹木・植え込んだ木・木立ち・夏木・落葉樹 / 花(15)・花葉(2)・(花の)香り・花卉・花のむれ・花柄 / 裸木の幹や枝・(樹木の)幹 / 葉(3)・(枯葉の)冬の音 / 枝(7)・小枝 / 草(6)・草花 / 植物の萌芽・芽 / 根
	【固有名詞】 蜜柑・柑子蜜柑・柑子みかんの花・蜜柑の木・柑子みかんの暗緑の葉・柑子みかん / 白藤の殻(3)・藤棚(2)・藤蔓・白藤の蒼・藤 / 沼の真菰・(沼の真菰の)浅緑の葉・真菰 / 小松の下枝・実生の小松・太行松・松 / 葦(17)・枯葦(2)・汀の葦(2)・汀の葦・葦・沼べりの枯葦・枯れ・葦の花・汀の青葦・葦べ・(葦の)穂・葦生・汀の葦の繁・葦の繁み・若葦の葉ずれの音・(葦の)静に寂しい(和琴の)音・葦
沼・沼周辺・波(87)	沼(46)・手賀沼(2)・朝の沼・月の沼・手賀の大沼 / 波紋・水の條・白波・(沼の)波・円輪・沼のなみ / 水(10)・手賀沼の水・沼の水 / 沼べ(5)・かつしかの沼べ・手賀の沼べ / 沼べり(2)・渚(2)・沼の西端 / 湖水・湖畔 / 沼地・水鏡・沼向う・沼のほう
生物・鳥(178)	【固有名詞以外】 昆虫・虫・虫 / 鳥(7)・(鳥の)声(4)
	【固有名詞】 兔の子(2)・(兔の)巢・(兔の)檻・黒(兔)・斑(兔)・斑の兔・兔の仔 / 狢犬・犬・子犬 / 黒(猫)・黒猫 / 田螺・田螺の殻・鳥貝や田螺の殻・鳥貝 / 螢の火・螢 / 蟬・夏蟬・蟬の歌 / 蛇(11)・蟹(3)・蛙の声(3)・蚊(2)・熊蜂(2)・こま虫(2)・虻・蠶の虫・蜻蛉・かみきり虫・蜚蠊の胴切り・めだかの群・鱒・鮒・泥鰌・尻ひり虫・赤とんぼ / 燕(6)・子燕(2)・親燕(2)・燕の子・(燕の)尻尾・(つばめの)巢(4)・(つばめの)軒下の古巢 / 百舌(20)・親鳥(6)・小鳥(5)・子鳥(2)・(百舌の)子 / 頬白・頬白の歌・頬白の声・頬白のこえ / 鴨の群(2)・鴨(2)・家鴨 / 鶏・雄鶏・母鶏 / 葦(3)・行々子(2)・行行子 / 椋鳥(6)・椋公・椋鳥のむれ / 水鳥・(水鳥の)群 / あひる・あひるの子 / 鶺鴒(7)・白鶺(4)・雀(2)・鶯・杜鵑・都鳥・(カイツブリの)雛・鶺・鶺・雁・鶺・鶺の鳥・ぼぼどり
気象(96)	風(17)・西風(2)・辰巳の風・南西の風・南風・北風・筑波風・そよ風 / 雨(17)・梅雨(2)・驟雨(2)・秋雨・小雨・小棘雨 / 雪(20)・粉雪(3) / 天気(4)・天候(2) / 雷鳴(2)・電光 / 霽(4)・霽・時化・薄曇り
畑(54)	【固有名詞以外】 畑(25)・畑地 / 畑の色・後の畑・(畑の)穴ぼこ /
	【固有名詞】 麦畑(3)・麦ばたけ(2) / 菜畑(2)・菜ばたけ / 桃畑・桃ばたけ / 葱畑・葱の畑 / 綿畑(2)・茶畑(2)・菜の花畑・豆ばたけ
日・光(39)	光(3)・日光・夏的光・朝の光・太陽の光・微光・光線 / 夕日(3)・夕暮れ(2)・入日・落陽の光華・夕映 / 日(12)・陽の光・日向 / 朝の陽・朝日 / 太陽(2)
家(31)	人家(2)・Sの家(3)・百姓家・家(6)・一軒家・渡場の家 / (対岸の)藁屋根・渡し場の藁屋根・屋根瓦 / 風呂屋(3)・据風呂 / タンク・門(3)・生垣(2)・軒下・土管の煙出し・(寛の)水の音・納屋
人(30)	子供(8)・亀ちゃん(4)・女の子(3)・家の子 / 天秤で炭俵をかついでゆく男・(炭売りの)男 / 炭屋(2)・Sの細君・鉄砲打・船頭のおやじ・富樫・嫁さん・合唱の声・「おーう」と呼ぶ声・女・若い男・声 /
土地・土(22)	地面(3)・Sの地面・地 / 土地(10) / 土(7)
道・路・坂(16)	道(3)・小路(2)・沼のわき道・森の道・沼べりの畔道・沼べりの路・高台の畑路・田圃路 / 坂・坂路 / 道傍・道の辻
月・星(14)	月(3)・片われの月(2)・夕月・半月の影・(片われ月の)影・月明 / 星(4)
森・林・藪(12)	林(4)・松林(3) / 森(2)・対岸の森 / 藪(2) /
農作物(59)	【固有名詞以外】 作物・畑のもの・田のもの・果物
	【固有名詞】 稲(4)・早稲・陸稲・(稲の)切り株・かけ稲・刈った稲・刈田の切株 / 麦(3)・麥・麦の穂・麦藁の束・(麦の穂の)露・(麦の)粉 / モロコシ(2)・(モロコシの)穂(2)・モロコシの穂・(モロコシの)実・蜀黍の穂 / 茶の木(4)・茶の花(2)・茶ばた / 藪・一束の藪 / 苗・苗の束 / さつま芋・薩摩芋・芋・そら豆・豆・三月豆の白い花・藤豆の花・牛蒡・京菜・菜の花・菜・らっきょうの花・大根・綿の木・葱・唐辛・穀物のみのもった穂・粟・支那瓜
空・雲(48)	空(13)・青空(5)・西の空(3)・空の色(2)・大空・東の空・西一帯の空 / 雲(17)・雲の脚・雲のわれ目 /
舟・船・渡し(42)	舟(11)・藪刈り舟・鰻かきの舟・「もく」をとる舟・藻をとる舟・田舟(4)・鮒とりの舟 / 渡場(5)・舟つき・臨時にできた船つき / 沼船・田船・荷船・船 / 渡し(3)・渡舟 / 舟の帆・帆 / 棹(2)
自然(33)	自然(30)・沼への自然・自然の相・自然に顕れる線と形 /
丘・岡・岸(22)	丘(5)・対岸の丘(2) / 岸(2)・対岸(2)・沼のむこう岸・手賀沼の岸 / 岡(2) / 汀(2)・(対岸の)岬 /
庭(13)	庭(9)・庭さき(2)・ある家の庭・家の庭 /
山(8)	山(4)・松山 / 富嶽の姿・富士山・富士
鉄道・停車場(7)	線路・鉄道路線・鉄道線路 / 我孫子の停車場・停車場 / 鉄道 / 枕木の柵
農業・漁業(69)	【人】 女(5)・嫁さん(2)・早乙女・茶つみ女・紺飛白をきて手拭をかぶった女たち・(草をつむ)娘 / 男(4)・天秤で苗をかついでゆく男・若い男 / 百姓(4)・夫婦ものの百姓・先生(百姓) / 手拭をかぶった婆さん・頬かむりの婆さん・福福しい婆さん / 人の声(2)・声 / (舟で棹をとる)男・船のうえの人 / 茶つみ唄・野の唄 /
	【作業】 鰻かき・鮒つり・棹を水に投げる音・水の音 / 田植へ・稲刈り・焚火・稲こきを踏む音
田(23)	【道具】 鍬(4)・柄杓(3)・籠(2)・籠(2)・肥柄杓・笊・肥たご・唐丸籠みたいなもの・天秤・たも網・ヤス・カンテラ・腹糞かと思ふもの・ヨシズ・ムシロ・藁笠・菅笠・笠・肥料の匂い・肥料・糞 /
	田(5)・田圃(4)・刈り田・新田・沼辺の小田・沼田 / 畦(3)・田の畦(2)・田の畔 / 鳴子・小田の鳴子 / 田圃の水
商店・施設(10)	炭屋(2)・魚屋・八百屋・菓子屋・米屋・魚屋の軒・旅館 / 郵便局・警察分署
崖(7)	崖(5)・崖下(2)・(対岸の)崖の赤土・後の崖
社寺(3)	子の神(2)・氏神の香取さん
その他(58)	街道(2)・籠(3)・鳥籠(2)・提灯(2)・泥(2)・算(2)・鉄砲・籐の寝椅子・古墳・古城跡・石器・土塊・土器・空気・重くるしくをどんだ空気・夜の空気・地平線・入江・風呂桶・(たい松の)火影・鶏小屋・塵埃・石ころ・小島・鉄砲・朴歯の日・和・戸・蠟の火・桶の蓋・籠・氷倉・泥輪とり・たい松・砦・(草や木やすべてのものからの)からからした冷たい音・粗朶・野(山からの)水(3)・(洪水の)水(3)・井戸(3)・井戸の水・水溜り・出水・雪どけの水の落ちる音・水溜まり

景観構成要素におけるカテゴリ

※景観構成要素は関連する要素毎にまとめ、スラッシュで区切って表示した。

表 5 景観構成要素のカテゴリにおける形容表現

		景観構成要素にかかる形容詞・形容動詞などのグループ (回)	計 (回)
景観構成要素におけるカテゴリ	●沼	美しい(7)・寂しい(7)・静か(6)・温かそう(2)・嬉しい(2)・親しい(2)・好い(2)・つまらない(2)・冷たい(2)・荒れた(2)・なつかしい・濃い・平和な・堅くろしい・野趣のある・軽い・柔かい	41
	●植物・樹木	美しい・綺麗(5)・好い(4)・さびしい(6)・あきない(4)・気持ちいい(2)・親しい(2)・小さい・可愛い・静か・讚美すべき・温かそう・みづみづしい・浄げ・粗野な	31
	●森・林・藪	心地よい(2)・みずみずしい・美しい・大きい・奥深い	6
	●生物・鳥	趣ある(6)・好い(4)・すばやい、元気な(4)・邪魔(3)・可愛い(2)・細い(2)・おとなしい(2)・綺麗な・残りをしい・愛すべき・親しい・愛すべきでない・お喋りな・気の強い・馴れない・弱っている・冷たい・けたたましい・小さい・楽しげ・ひどい・さびしい・おこがましい	39
	△道・路・坂	わるい・細い・暗い・白い	4
	○畑	美しい(4)・冷たい(2)・親しい・気持ちいい・みづみづしい・鮮やかな・豊かな・さびしい・広い・ささやかな・遠い	15
	●気象	美しい(2)・ひどい(2)・軽い(2)・温い・好い・浅い・細い・濃い・柔かい	12
	●土地・土		0
	●日・光	美しい・風情がある・鮮な・弱よわと・なつかしい	5
	●月・星	好い・小さい・ほの白い・うす暗い・輝きのない	5
	●空・雲	親しい(3)・美しい(2)・愛している・静か・温かい・好い・蒼暗い・多い・浅い	14
	△丘・岡・岸	静か(2)・美しい	3
	●自然	愛している(4)・親しい(3)・平坦、平凡な(3)・美しい(2)・清い、浄化(2)・複雑な(2)・美しい・けだかい・厳か	19
	△山	素敵な	1
	○農作物	さびしい(3)・美しい(2)・不思議な(1)	6
	○農業・漁業	大きい(3)・見ばえのしない・骨の折れる・寒い・福福しい・敏捷に・てぎわよい・美しい・単調な・哀調	12
○田	美しい・やさしい・みづみづしい・さびのある・泥臭い・寂しい・賑っている	7	
△崖		0	

表中記号の凡例：●は「自然」、△は「地形」、○は「農業」のカテゴリであることを示す。

の存在があげられた。また、「植物・樹木」、「鳥」、「生物」の景観構成要素は、具体的な固有名詞として記述されたものが多かった。それらの景観構成要素は現我孫子市でも確認できる葦、百舌など日常的な種であった。地形に関する景観構成要素では、富士山や対岸など眺望景観を構成する要素が複数確認された。さらに、農業に関する景観構成要素は、作物の具体的な固有名詞が多く挙げられ、刈り田などの農作業の状態を表す景観構成要素も確認できた。

構成文化人の多くを占める白樺派の文人は、彼らの思想の軸として「自我」や「自由」、「豊かさ」を掲げている。思想の具現化として、武者小路実篤の調和社会によるユートピアを求めた「新しき村」や柳宗悦による用の美を追求した「民芸運動」などがあげられる。彼らの思想とテキストから抽出された景観構成要素の特徴から、構成文化人が我孫子の景観構成要素内に見出した価値は、我孫子の自然環境や半農半漁の生業により構築された日常的な景観構成要素の美や親しみやすさ、豊かさであったと推察される。

本研究で抽出した景観構成要素は、現我孫子市の歴史事象である「文化人コロニーの形成」を行った構成文化人によって描かれたものである。それらは彼らの文学潮流からの影響も含んでいると推察され、我孫子の歴史的景観構成

要素として位置付け得ると考える。また、抽出した景観構成要素は現我孫子市においても存在している。「沼」としてあげられた手賀沼は現我孫子市において象徴的存在であり、我孫子は野鳥の生息地としても名高い。経営耕地面積は減少傾向にあるものの、近隣市町村と比較して農家の平均経営規模は大きく、現在農業振興計画が推進されている²⁶⁾。それらの今後の保全・創出の方策において、本研究で明らかにした景観構成要素の特徴や重要な箇所、状態などが援用できると考える。

補注および参考文献

- 1) 池田朋子 (1993) : 文学作品から空間を読み取る手法について : 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 155-156
- 2) 池田朋子ほか (1997) : 1970~94年の芥川賞受賞作品群にみる自然景観イメージとその変遷 : 日本建築学会計画系論文集 No28, 583-588
- 3) 杉浦高志ほか (2002) : 大河小説「安曇野」にみられる農村風景描写の変遷—戦前・戦後の比較から— : 2002年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集, 711-712
- 4) 陸地測量部 (1887-1897) : 2万分の1迅速測図 我孫子宿取手駅 龍箇崎村
- 5) 日本地図センター (1991) : 明治前期測量 2万分の1 フラン

- ス色彩地図—第一軍官地方二万分一迅速測図原図復刻版—千葉県下総國南相馬郡布施村及我孫子宿近傍測図
- 6) みんなのアルバム同好会 (2004): 我孫子 みんなのアルバムから: みんなのアルバム同好会, 8, 9, 22, 23, 26-29, 40, 41, 44, 45, 56, 57, 65, 67, 69
 - 7) 秋谷半七 (1978): 手賀沼と文人: 斎書房, 2-36
 - 8) 秋谷半七 (1981): 手賀沼散策 沼と人と自然と: 斎書房, 2-11
 - 9) 我孫子市史編集委員会近現代部会 (2004): 我孫子市史近現代篇: 我孫子市教育委員会, 349-355
 - 10) 郷土我孫子編集委員会 (1982): 郷土あびこ 4 我孫子の生業, 2-17, 80-83
 - 11) 武者小路実篤 (1988): 武者小路実篤全集第3巻「新らしき家」: 小学館, 85-105
 - 12) 志賀直哉 (1973): 志賀直哉全集第3巻「雪の日」, 「雪の遠足」, 「矢島柳堂」: 岩波書店, 79-98, 239-269
 - 13) 柳宗悦 (1981): 柳宗悦全集第1巻「我孫子から 通信一」, 「我孫子から 通信第二」, 「我孫子から」: 筑摩書房, 332-346, 388-391
 - 14) 中勘助 (1994): ふるさと文学館第13巻千葉「沼のほとり」: ぎょうせい, 207-253
 - 15) KH coder ber. 2. beta. 23 は, 樋口耕一氏によるテキストマイニング用のフリーソフトウェアである。< <http://khc.sourceforge.net/dl.html> > 2010.6.5 更新, 2010.9.5 参照
 - 16) 兵藤純二 (1979): 大正期・我孫子在住の作家たち: 我孫子の文化を守る会
 - 17) 住谷悦治ほか (1967) 講座・日本社会思想 2 大正デモクラシーの思想: 芳賀書房, 156-170
 - 18) 本多秋五 (2000): 現代日本文学大系 79 『白樺』派の文学」: 筑摩書房, 22-59
 - 19) 西垣 勤 (1981): 白樺派作家論: 有精堂出版, 2-32
 - 20) 関川夏央 (2003): 白樺たちの大正: 文芸春秋, 3-10
 - 21) 我孫子市史編さん委員会 (1990): 我孫子市史 民俗・文化財篇: 我孫子市教育委員会, 172-195, 216-226
 - 22) 持田智彦 (2002): 志賀直哉の庭園観に関する研究: 東京農業大学平成14年卒業論文
 - 23) 小田切進ほか (1977): 日本近代文学大事典第1巻: 講談社, 148-152, 221
 - 24) 小田切進ほか (1977): 日本近代文学大事典第2巻: 講談社, 302-305, 485-487
 - 25) 小田切進ほか (1977): 日本近代文学大事典第3巻: 講談社, 333-337, 400-402
 - 26) 我孫子市ホームページ< <http://www.city.abiko.chiba.jp> > 2008.7.18 更新 2011.5.10 参照

The Landscape Elements Recognized by Intellectuals Lived in Abiko, Chiba Prefecture

By

Nao ISHIKAWA* and Ayumi ARAI**

(Received February 24, 2011/Accepted June 17, 2011)

Summary : Abiko city is located in the northwest of Chiba Prefecture. Lying between the Tonegawa River to the north and Lake Teganuma to the south, Abiko is rich in natural features. In the Taisho era, many intellectuals from Tokyo had their cottages on the south-facing slope by Lake Teganuma. The aim of this study is to grasp how intellectuals recognized landscape elements of Abiko in the Taisho era. First, we outline a colony of intellectuals who lived in Abiko. Second, we survey literature by intellectuals that might provide insights into the environment in Abiko. Third, we analyze landscape elements in the literature that was written by intellectuals. Finally, we consider features of the landscape elements of the lakeside environment in Abiko. As for the features of landscape elements that intellectuals wrote about, we obtained the following : the animals and plants living near a colony and one which be able to see in everyday by intellectuals. Especially Shirakaba school, the main group of intellectuals, found out the ideal beauty and happiness through their life in Abiko.

Key words : Abiko, landscape elements,intellectuals, Shirakaba school, the Taisho era

* Department of Landscape Architecture, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture

** Department of Landscape Architecture Science, Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture